

佐藤ゆきお 日々の活動



●八乙女杉の田
から北根3丁目
の間に安全対策
街灯設置
1月12日 調査
6月30日 完了



●八乙女4丁目
ごみ集積所整備
危険な段差
を解消
3月21日調査
9月9日 完了



●松森齊兵衛4
8付近(万代書
店近く)カーブミ
ラー設置
7月24日 調査
12月10日 完了



車止め 設置



歩道の段差整備

●松陵3丁目公
園安全対策
10月7日 調査
12月1日 完了

佐藤ゆきお

市議会通信

SATO YUIKIO SHIGIKAI TUSHIN

【泉区】IZUMI-KU

6

荒浜小学校 震災遺構の状況を視察 2017年1月4日



本市の地球温暖対策について取り組むべき
課題を訴える！

皆様には日頃より暖かなご支援、そして様々な「声」を頂戴いたしまして心より御礼申し上げます。平成28年 第4回定例会(12月5日～12月20日)が開催されました。今定例会におきましても、当会派の代表質疑で、東日本大震災より5年9ヶ月が過ぎましたが、「最後のお一人が生活再建、そして心の復興を成し遂げるまで復興は終わらない」との思いを再度、奥山市長へ訴えて参りました。これからも最後のお一人まで寄り添った復興の取り組みを進めて参ります。

現在、地球温暖化が世界的問題となっており、今年も温暖化の影響で様々な自然災害が発生致しました。地球温暖化対策は「待ったなし」の課題であり、次の世代に良好な環境を守っていくためには、あらゆる対策を講じていかなくてはなりません。昨年末に「パリ協定」が発効され世界規模で環境対策が動き出しました。今回の通信には、第3回定例会(9月)に質問しました本市の環境対策について掲載させて頂きます。

仙台市議会議員 佐藤 幸雄

一人の声を
市政に
つなぎます
VOL. 6
2017年1月発行
発行元／仙台市議
会公明党市議団
仙台市議會議員
佐藤 幸雄
仙台市泉区南光台1
-56-15-1
TEL.022-272-4863
Email yukio@
sendai-komei.jp
HP <http://sato-yukio.jp/>



プロフィール

昭和43年7月25日
仙台市生まれ
昭和62年仙台商業高等学校卒業
(硬式野球部OB)
平成4年1月 新日軽株式会社入社
(現・株式会社LIXIL)
平成27年4月25日 退社
平成27年8月2日 仙台市議初当選
<所属委員会>
市民教育委員会(H28年度)
健康福祉委員会(H29年度)
環境・エネルギー・政策調査特別委員会(H28年度～)
広報委員会(H28年度～)

<党役職>
県本部青年局次長
泉第二支部支部長
商工経営対策副委員長
広宣企画局次長

HP
<http://sato-yukio.jp/>
SATO YUIKIO SHIGIKAI
TUSHIN
VOL. 6 2017.1



第3回定例会
決算等審査特別委員会 環境費
質問 平成28年9月

本市の地球温暖対策の取り組みについて

1. 地球温暖化対策は「待ったなし」の課題

【佐藤幸雄議員】我が国の地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するための計画である「**地球温暖化対策計画**」が本年5月13日閣議決定された。そして政府は「パリ協定」の批准案を今月26日招集の臨時国会に提出する方針を決定。国会で承認されれば、年内にパリ協定が発効する可能性が高まる。本市が現在推進している「**杜の都 環境プラン**」との目標数値及び取り組みの整合性も含め支障がないものか所見を伺う。

【環境企画課長】国の温室効果ガス削減目標は2030年度を目標としており、本年3月に改定した「**杜の都環境プラン**」では、これに5%上積みした上で、計画年度である2020年度の目標を逆算して設定している。またその取り組みの内容についても、国の施策を本市において推進するとともに、本市独自の取り組みも加えて目標達成を目指すこととしており、国との整合性は図られているものである。

【佐藤幸雄議員】「地球温暖化対策計画」の資料によると、家庭部門における2013年度の二酸化炭素排出量

は、2億100万トン—Co₂であり、2005年度比で11.9%増加していると指摘。2030年度の目標達成に向けては同部門の排出量を**約4割削減**する必要があり、住宅から排出されるCo₂は様々な対策を講じているが増え続けている、と警鐘をされている。そこで関連して伺うが、28年度予算にて提案し、本市が初めて実施している**一般家庭からの温室効果ガス排出抑制の施策である、窓断熱工事等の助成**は、現在どのような状況なのか進捗を伺う。

【環境企画課長】お尋ねの「**熱エネルギー有効活用支援補助金**」については、給湯や暖房など、熱に関するエネルギーの有効活用による省エネを推進するため、これに資する住宅、事業所の改修工事や機器設置に対して補助を行うものである。本年5月の申請開始以降、着実に交付申請件数が伸びており、8月末現在、申請受理件数は132件、交付見込額は3400万円の約47%となっている。申請の内訳を見ると、**窓断熱改修**が最も多く、ついで家庭用コージェネレーションシステムであるエナファームとなっている。引き続き制度の周知を図り、本制度の有効活用により温室効果ガスの削減につながるよう努めていく。

2. 持ち込みゴミ手数料改定について

【佐藤幸雄議員】本市では現在、持ち込みゴミの価格改定を検討している。理由を伺うと、他都市との比較では処分手数料は政令指定都市平均単価の約65%と大幅に単価が低いとの事だが、**手数料を上げる事についての効果、いわゆるメリットについて丁寧に説明すべきである**と考える。所見を伺う。

【ごみ減量推進課長】本市の手数料は、平成15年の改定以来10数年が経過し、金額、処分費用に対する負担割合とともに、政令指定都市平均よりも低い水準となっている。今回の見直しにより、事業ごみの減量・リサイクルが進み、仙台市一般廃棄物処理基本計画に掲げるゴミ総量の目標達成に繋がるものと考えている。更には、温室効果ガスの排出を低減する「低炭素社会」、限りある資源を有効活用する「**資源循環社会**」の実現など、地球規模の環境問題にも寄与するものであると考えている。

【佐藤幸雄議員】価格の設定は、現在ご利用されている中小・小規模事業者の皆様にご理解を頂けなければならない事が「**最大の課題**」であると私は考える。もしご納得を頂かないまま推進をした場合「**不法投棄が増える・分別の協力を得られない**」等のデメリットが考えられる。

そこで提案ですが、事業ごみの本市処理施設への搬入の際、**資源ごみも同じ施設で回収する事が出来れば、分別の協力を得られやすくなり、更に「10kg単位の価格設定」などの事業**

者へメリットがあれば合意形成に寄与できると考える。

本市は、事業者の皆様へのご理解とご協力を頂き、協働で進める思いで施策の合意形成を推進すべきと期待するが、当局の所見を伺う。

【環境局長】今回の手数料の見直しについては、事業者の方々のご理解が欠かせないところであり、分別・リサイクルを徹底することで手数料負担を軽減できることなどを含め、丁寧なご説明を心掛けてまいりたいと考えている。

資源ごみの回収については、事前軽量などの流れを考えると、搬入前に手数料の対象とならない資源ごみを分けて回収する必要がある。

隣接する環境事業所に紙類の無償回収庫を設け、まずこちらに立ち寄っていただき、資源ごみの回収を行う。今後、事業者の方々へのご説明を行う際には、こうしたこともしっかりとご案内差し上げるとともに、紙類回収庫の増設によるリサイクルしやすい環境づくりの取り組み等についても併せてご説明を差し上げ、事業者の方々との協働によるごみ減量へつなげて参りたい。

